

さいたま商工会議所 中小企業景況調査報告書（要約版）

【2021年7-9月期/さいたま市域】

さいたま商工会議所

《調査結果のポイント》

業況判断DIは一部業種に持ち直しの動きがみられる

- ・ 全産業の業況判断DIはマイナス幅が縮小した。(▲21.7→▲15.5)
 - ・ 全産業の売上額DIはマイナス幅が拡大した。(▲17.1→▲22.4)
 - ・ 全産業の経常利益DIはマイナス幅が拡大した。(▲14.0→▲25.9)
- (1) 全産業の業況判断DIは▲15.5（前期差+6.2ポイント）となり、マイナス幅が縮小した。
産業別では、製造業は±0.0（前期差+11.8ポイント）でマイナス幅が縮小した。非製造業は▲17.6（前期差+5.6ポイント）でマイナス幅が縮小した。
来期（2021年10-12月期）の全産業予想業況判断DIは▲19.8（前期差▲4.3ポイント）でマイナス幅が拡大の見通しである。
- (2) 全産業の売上額DIは▲22.4（前期差▲5.3ポイント）でマイナス幅が拡大した。
産業別では、製造業は14.3（前期差+20.2ポイント）でプラス幅に転じ、非製造業では▲34.0（前期差▲18.8ポイント）でマイナス幅が拡大した。
- (3) 全産業の経常利益DIは▲25.9（前期差▲11.9ポイント）でマイナス幅が拡大した。
産業別では、製造業は▲21.4（前期差▲3.8ポイント）、非製造業においては▲23.1（前期差▲8.1ポイント）でマイナス幅が拡大した。
- (4) 全産業の原材料仕入単価DIは20.7（前期差▲4.9ポイント）でプラス幅が縮小した。産業別では、製造業は71.4（前期差+18.5ポイント）でプラス幅が拡大した。非製造業は13.1（前期差▲18.3ポイント）でプラス幅が縮小した。
- (5) 全産業の資金繰りDIは▲11.2（前期差+1.2ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。
- (6) 今期設備投資を実施した企業割合は全産業では25.9%（前期差+9.6%）と増加している。
来期設備投資を計画している企業の割合は19.0%と今期実績から減少している。
- (7) 全産業の従業員数過不足DIは▲15.5（前期差▲4.6ポイント）で「不足」感が拡大した。産業別では、製造業は▲35.7（前期差▲12.2ポイント）で「不足」感が拡大した。また、非製造業は▲12.7（前期差▲2.1ポイント）で「不足」感がやや拡大した。

(注1) DIとは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

[調査要領]

本調査は、さいたま商工会議所管内の景気動向を把握するために、会員事業所の協力を通して四半期毎の景況をアンケートの方法によって調査し、集計値をDI（注）で示したものである。

- (1) 調査対象期間 2021年7月1日～9月30日
 (2) 調査時期 2021年9月1日～9月30日
 (3) 回収状況 さいたま商工会議所の会員事業所で調査対象数230のうち有効回答数116（有効回答率50.4%）

1. 業況判断D I（「好転」－「悪化」前期比）

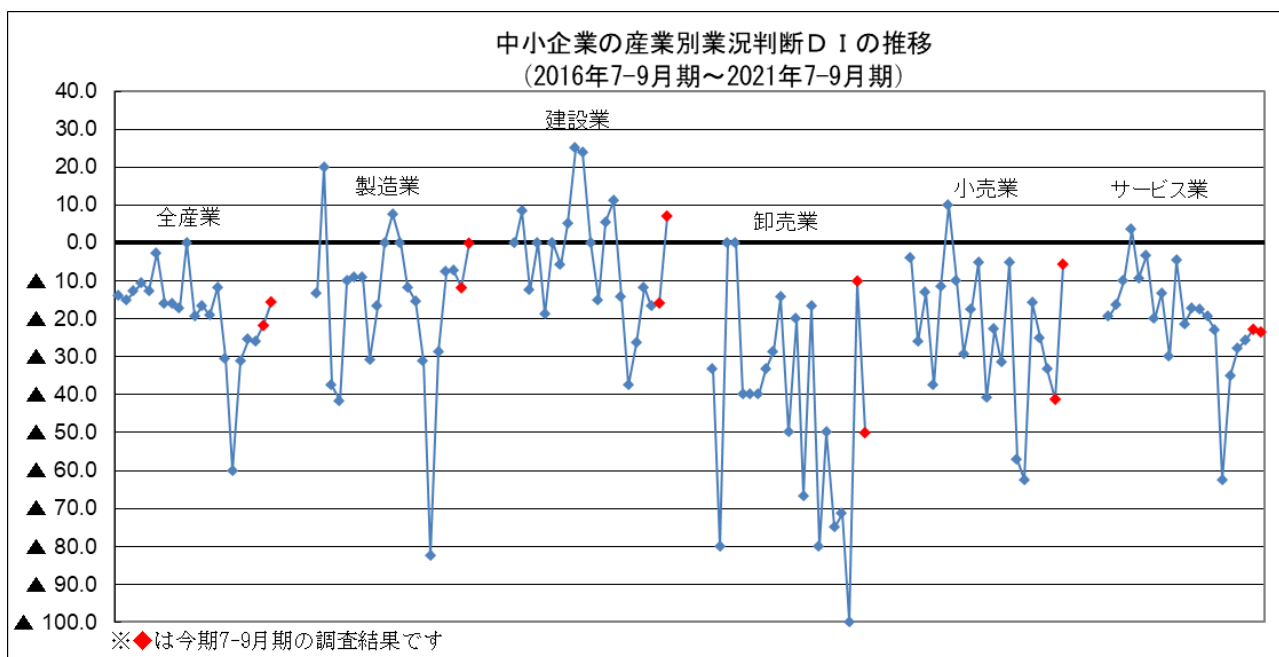
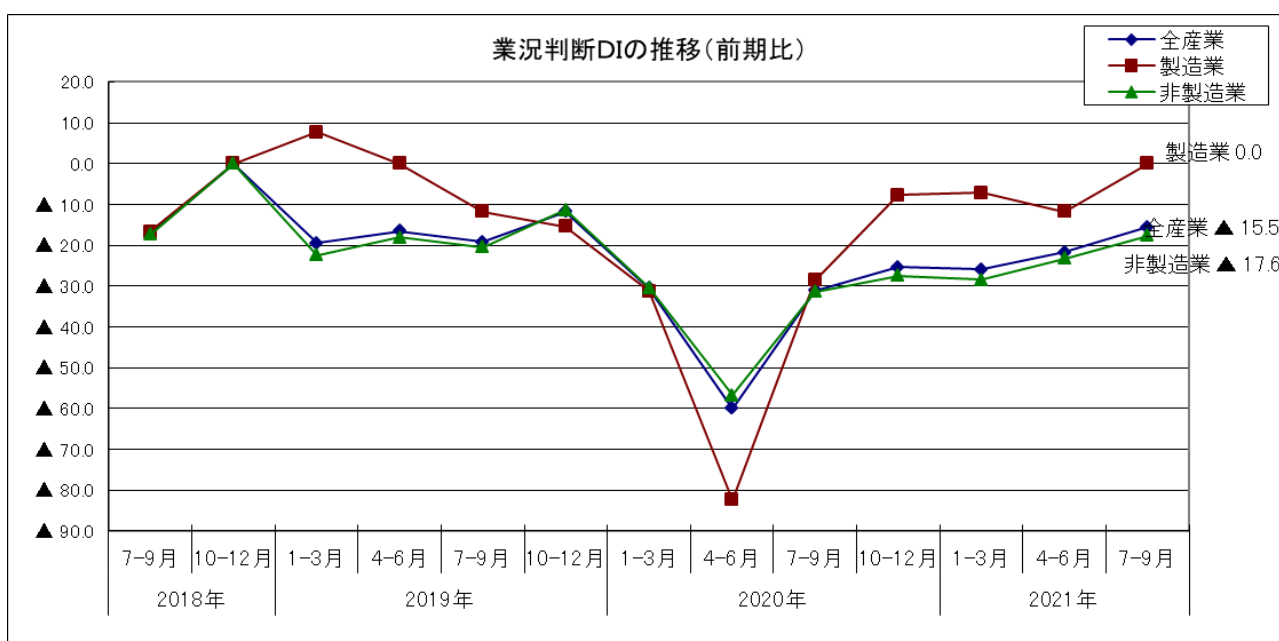
(1) 全産業

2021年7-9月期の全産業の業況判断D Iは▲15.5（前期差+6.2ポイント）となり、マイナス幅が縮小した。

来期の全産業予想業況判断D Iは▲19.8（前期差▲4.3ポイント）でマイナス幅が拡大の見通しである。

(2) 産業別

産業別では、製造業の業況判断D Iは±0.0（前期差+11.8ポイント）でマイナス幅が縮小した。非製造業（建設業、卸売業、小売業及びサービス業）は▲17.6（前期差+5.6ポイント）でマイナス幅が縮小した。業種別では、建設業は7.1（前期差+22.9ポイント）でプラス幅に転じた。卸売業は▲50.0（前期差▲40.0ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。小売業は▲5.6（前期差+35.6ポイント）でマイナス幅が大幅に縮小した。サービス業は▲23.4（前期差▲0.7ポイント）でマイナス幅がやや拡大した。



2. 売上額D I（「増加」－「減少」前期比）

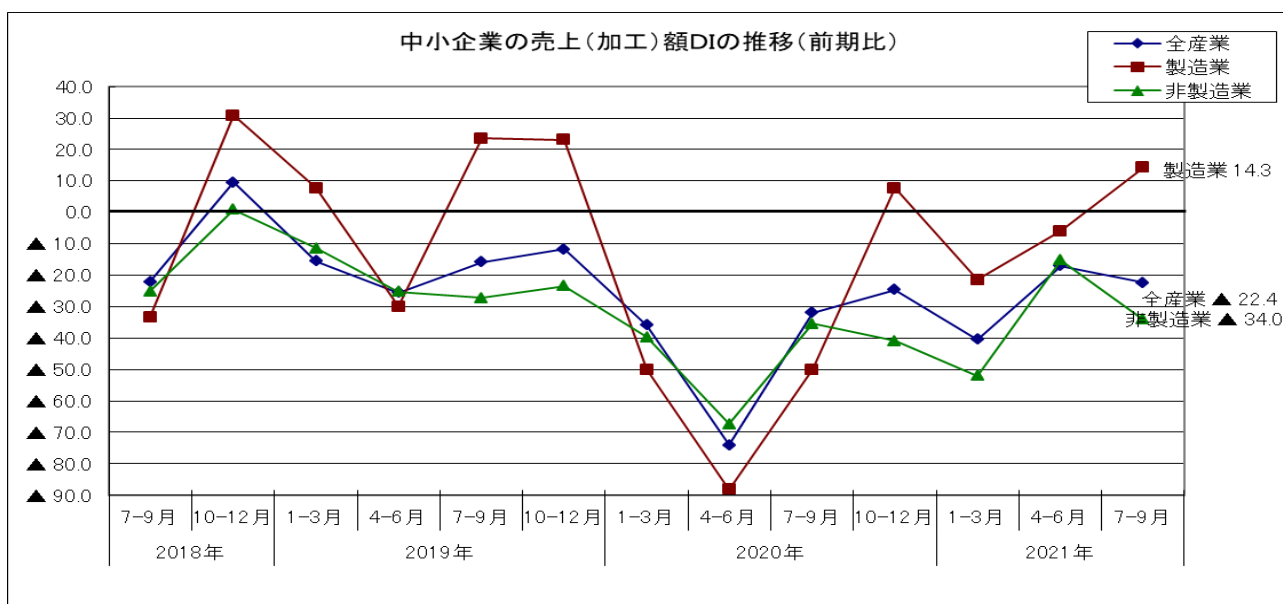
(1) 全産業

2021年7-9月期の全産業の売上（加工）額D Iは▲22.4（前期差▲5.3ポイント）でマイナス幅が拡大した。

(2) 産業別

産業別では、製造業は14.3（前期差+20.2ポイント）でプラス幅に転じ、非製造業は▲34.0（前期差▲18.8ポイント）でマイナス幅が拡大した。

業種別では、建設業は14.3（前期差+24.8ポイント）でプラス幅に転じた。卸売業は▲83.3（前期差▲73.3ポイント）、小売業は▲38.9（前期差▲21.3ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。サービス業は▲28.1（前期差▲5.4ポイント）でマイナス幅が拡大した。



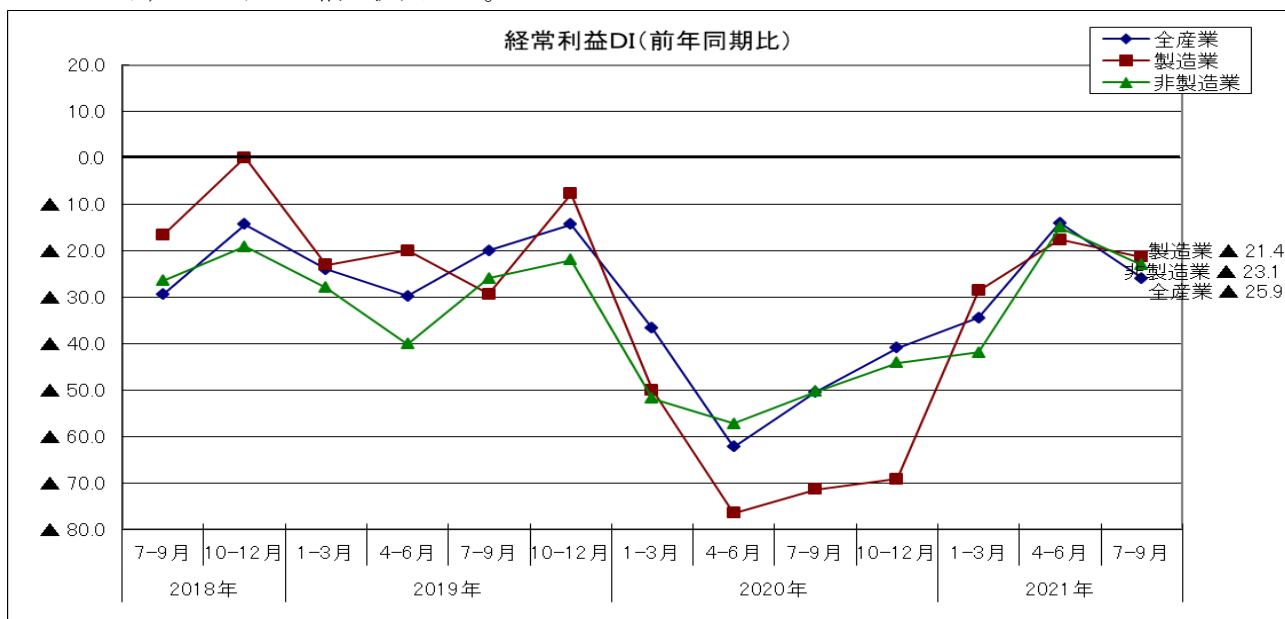
3. 経常利益D I（「好転」－「悪化」前年同期比）

(1) 全産業

2021年7-9月期の全産業の経常利益D Iは▲25.9（前期差▲11.9ポイント）でマイナス幅は拡大した。

(2) 産業別

産業別では、製造業は▲21.4（前期差▲3.8ポイント）、非製造業は▲23.1（前期差▲8.1ポイント）でマイナス幅が拡大した。



4. 原材料仕入単価D I（「上昇」－「低下」前年同期比）

原材料仕入単価D Iは、全産業では20.7（前期差▲4.9ポイント）でプラス幅が縮小した。業種別では、製造業は71.4（前期差+18.5ポイント）でプラス幅が拡大した。建設業は42.9（前期差▲4.5ポイント）でプラス幅が縮小した。卸売業は▲16.7（前期差▲66.7ポイント）でマイナス幅に転じた。小売業は16.7（前期差▲0.9ポイント）、サービス業は9.4（前期差▲1.2ポイント）でプラス幅がやや縮小した。

5. 在庫水準D I（「過剰」－「不足」今期の水準）

在庫水準D Iは全産業では▲21.1（前期差▲14.3ポイント）で「不足」感が拡大した。業種別では、製造業は▲14.3（前期差+9.2ポイント）で「不足」感が縮小、卸売業は▲16.7（前期差▲26.7ポイント）、小売業は▲27.8（前期差▲27.8ポイント）で「不足」感に転じた。

6. 資金繰りD I（「好転」－「悪化」前期比）

全産業の資金繰りD Iは▲11.2（前期差+1.2ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。産業別では、製造業は±0.0（前期差+11.8ポイント）で改善し、非製造業は▲12.6（前期差+0.8ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。

7. 借入難易度D I（「容易」－「困難」前期比）

全産業の長期資金借入難易度D Iは▲4.3（前期差▲5.9ポイント）で「困難」に転じた。また、短期資金借入難易度D Iは▲0.9（前期差+1.4ポイント）で「困難」幅がやや縮小した。

産業別にみると、製造業では長期資金は「容易」幅が縮小し、短期資金も「容易」幅が縮小した。非製造業では長期資金は「困難」幅がやや拡大し、短期資金は「困難」幅が縮小した。

8. 設備投資動向

今期設備投資を実施した企業の割合は全産業では25.9%（前期差+9.6%）と増加している。

業種別では、製造業は64.3%（前期差+34.9%）で大幅に増加している。建設業は28.6%（前期差+18.1%）、小売業は22.2%（前期差+4.6%）、サービス業は20.3%（前期差+5.1%）で増加している。卸売業は0.0%（前期差▲10.0%）で減少している。

来期設備投資を計画している企業の割合は全産業では19.0%と今期の実績値から減少の見通しであり、前年同期の実績値（2020年7-9月期、23.5%）を下回っている。

9. 従業員数過不足D I（「過剰」－「不足」今期の水準）

従業員数過不足D Iは全産業では▲15.5（前期差▲4.6ポイント）で「不足」感が拡大した。

産業別では、製造業は▲35.7（前期差▲12.2ポイント）で「不足」感が拡大した。非製造業は▲12.7（前期差▲2.1ポイント）で「不足」感がやや拡大した。業種別では、建設業は▲28.6（前期差▲2.3ポイント）で「不足」感がやや拡大した。卸売業は±0.0（前期差+10.0ポイント）で「過剰」感へ転じた。小売業は▲11.1（前期差▲11.1ポイント）で「不足」感へ転じた。サービス業は▲10.9（前期差▲4.8ポイント）で「不足」感が拡大した。

10. 経営上の問題点

製造業では「原材料価格の上昇」、建設業では「材料価格の上昇」、卸売業では「仕入単価の上昇」、小売業では「需要の停滞」、サービス業では「需要の停滞」が第1位になっている。

第2位には、製造業では「従業員の確保難」、建設業では「従業員の確保難」、卸売業では「小売業の進出による競争の激化」「需要の停滞」、小売業では「消費者ニーズの変化への対応」「仕入単価の上昇」、サービス業では「利用者ニーズの変化への対応」がそれぞれ挙げられている。